

令和5年度府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）

1 現状及び課題等

(1) 学習改善の視点（児童の学び方）

- ①自分の「分かったこと」や「考えたこと」を書くことに苦手意識をもっている児童がいる。
- ②送り仮名を含め漢字を正しく書くことに課題を抱えている児童がいる。
- ③算数の「図形」領域の学習において、他の領域よりも難しいと考え、取り組むことに躊躇している児童がいる。

(2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- ①「分かったこと」や「考えたこと」をどのように書くとよいかのモデルを示し、書き方を理解させる。また、よく書けている児童を積極的に紹介する。
- ②正しく漢字を書くために、小テストを定期的に行い、漢字の習熟に励む。
- ③図形領域の学習では、タブレットPCを活用して図形を立体的に見ることができるようにする。

2 学校全体で目指す授業像

(1) 目指す児童の学びの姿

- ・多様な人々と関わり、互いに受け入れ合い、様々な経験を積み、豊かな心や感性がもてる児童を目指す。
- ・人権教育、道徳教育を基盤にした望ましい人間関係を築くことができる児童を目指す。
- ・失敗を恐れず、最後までやり抜く力をもった児童を目指す。

(2) 目指す授業像

- ・児童が主体的で対話的な学習ができるように、どの教科の授業でもグループ学習を積極的に取り入れ、話し合い活動の時間をとる。
- ・一部教科担任制や交換授業を行い、教師一人一人の児童に還元する。
- ・様々な教科で人権の大切さを児童に実感させるために、学年に応じた「個別的な視点からの取組」の学習を意欲的に行い、確かな人権感覚を育ませ、人権意識をもたせる。

3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

(1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	言語活動を充実させ、学びの過程のさらなる質の向上を図り、「単元で身に付けさせたい力」や「そのために必要な力」を考えて単元構想をする。	音楽	児童が自ら音楽に関わり、学ぶ楽しさを味わわせるために、協働的な学習を充実させ、表現する意欲の向上を図る。
算数	習熟度別学習集団の更なる充実を図り、指導と評価の一体化を目指した授業力の向上を図り、問題解決的な学習を重視する。	図画工作	材料や道具の安全な使い方を指導した上で、児童が材料や道具を試行錯誤する活動を充実させて、表現する意欲を高める。
社会	知識をつなげ深く理解したり、考えを形成したりできるように、考察の根拠となる資料を用意し、様々な立場から話し合う場面を設定する。	家庭	必要な作業手順を考えさせ、完成への道筋のイメージをもたせる。つまづいている児童を励まし、修正の手立てを助言する。
理科	「こうなるはずだ」という結果の見通しをもって実験を行い、その結果から考えたことの妥当性を検討する場を設定する。	体育	自分の学びの課程を蓄積し、成長を確かめられるようにする。友達に見てもらい、助言を取り入れられるようにする。
生活	児童が自然や生き物と触れ合い、季節を感じる活動の充実を図り、達成感を感じることができるようにする。	外国語	発音練習や歌を楽しく歌うだけでなく、英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を積極的に取り入れる。

(2) 児童用タブレット端末の活用【市共通】

- ・タブレット端末等 ICT 活用による授業改善を行い、複線型の授業を目指す。
- ・家庭での活用の仕方を具体的に示す。
- ・調べる学習においては、図書資料だけではなくタブレットPCを積極的に活用させ、児童が探求する際のツールとさせる。